

2023年2月24日



報道関係者各位

こども防災協会

波や風を味方につけてシーカヤック！

【うみとハロウィン】を開催しました。

2022年10月29日(土)~10月30日(日)【鴨川青少年自然の家】

「こども防災協会」は小学生と留学生ボランティアの方々と一緒に、10月29日~30日に"いざという時、生きのびる(72時間)こどもを増やすこと"・"さまざまな国の文化や習慣に触れ、共生の感覚を持つこどもを育てること"を目的として、「うみとハロウィン」を開催いたしました。

このイベントは、次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環で実施しています。



イベント概要

イベント名: ネイチャーぼうけん&防災キャンプ【うみとハロウィン】

日程: 2022年10月29日(土)~30日(日)

場所: 鴨川青少年自然の家

参加人数: 合計43名

参加者内訳: こども30名(小学生、内 被災経験 1名) / ボランティア9名 / スタッフ2名 / バス運転手2名

ボランティア出身国:全6カ国(フィリピン・メキシコ・スリランカ・ブラジル・チリ・ミャンマー)

シーカヤック

天気が良く、波も穏やか。10月下旬とは思えない暖かさで、海辺にいても寒さはあまり感じない日でした。はじめにパドルの使い方を習い、2人1組でカヤックに乗り海の上へ。コースに出て、フラッグのところまで進んだら大きくUターンして戻ってきます。「向かい風のときに進むと船が揺れるー！」などと、風向きや波の変化を敏感に感じ取り、分析する姿もみられました。低学年の子どもたちとはボランティアスタッフがペアを組んで、しっかりサポート。全員が無事にゴールできました。



ぐるぐるミイラ&おばけ脱出バトル

ケガをしたときの止血の流れや、正しい包帯の巻き方を学びます。ペアになり、血のりを使って実際のけがを再現。最初は包帯の結びがゆるかったり、途中でねじれてしまったりの連続でした。しかし、手こずっていた子どもたちも徐々に上達し、終盤には「私が包帯やってあげる！」と自信满满で言ってくれる子どももいました。その後は、海で想定される様々な災害・トラブルをもとに、クイズ形式でゲームを実施。「正しい心臓マッサージの方法は？」「クラゲに刺されてしまったら？」「傷口はどうやって消毒する？」など実践的な問題ばかり。ボランティアスタッフが、あえて不正解の回答を提案すると、なぜ間違っているのか、理由を付けて説明してくれる子どももいました。1泊2日のキャンプを通じて、海の危険に関する知識が深まったようです。



参加した子ども・保護者からの声

「はじめてカヤックをしたけど、ちゃんと進めて楽しかった！もっとやりたかった。」「包帯を自分に巻いてもらったとき

初めは少しゆるかったのですが、キツくしてもらったら今度は痛くて、力加減が難しいと感じた。」

<団体概要>

団体名称 : こども防災協会

URL : <http://kodomo-bousai.net/>

活動内容 : 防災に役立つ判断力と行動力を学べる「こども防災キャンプ」を実施しています。キャンプには、留学生ボランティアも多数参加。さまざまな国の文化や習慣に触れながら、災害に関わる英語も一緒に学ぶことができます。



日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

<お問い合わせ先>

団体名: こども防災協会

担当者名: 鹿島 美織

電話: 090-6684-9696

メールアドレス: volunteer@kodomo-bousai.net